

## 長島 昭 先生を送る

著者	半田 孝司
雑誌名	静岡地学
巻	119
ページ	19-19
発行年	2019-06-10
出版者	静岡県地学会
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/00027682">http://hdl.handle.net/10297/00027682</a>

## 長島 昭 先生を送る



長島 昭先生のご逝去に際し、謹んで哀悼の意を表します。

平成31年2月、91歳で亡くなられた先生は、静岡県地学会（以下、地学会）発足時から中心的存在であり、副会長、支部長等を歴任された。これまでの業績は、「東海自然歩道の地学案内」、「えんそくの地学」、「大地見てあるき」、「しずおか地学図鑑①」（いずれも共著、地学会刊）「しずおか自然史」（共著、静岡新聞社刊）等で知られているが、この他に会誌「静岡地学」に長年に亘り多数投稿されている。

先生とのご縁は半世紀を越えて温かなお人柄に触れ、数々のご指導をいただいた。

当初、地学会運営の滑り出しは好調であったが、やがて会誌の原稿が少なくなり、年2回の発行が危ぶまれる時期があった。会誌の原稿不足を、打ち明けたところ、気さくに聞いてくださり、「つなぎに何か出そうかね」と、自ら原稿を届けてくださったことも一度や二度ではなかった。また、会誌の編集についても、いろいろと相談に乗っていただいた。

例えば、会誌のトップに掲載している「地学散歩」（主な観察地やトピックスを写真と解説で構成）を発案し、その最初の原稿を書いてくださった。この「地学散歩」は、すでに98編を数え、会誌の特徴的スタイルとして定着している。

先生と愛用のバイクの関係も印象深い。長年に亘り、教鞭を執られた静岡女子商高（現、静岡城南高等学校・中学校）は会事務局（静岡大学）に近く、軽快なバイク音とともに事務局へ来ていただけるのは私にとって何かと好都合であった。また、バイクは小回りが効くので、細い道や谷の奥、丘の上などを自在に走り、野外調査にも便利である。先生の調査密度の高さもこのバイクによるところが大きいに違いない。その行動範囲も広く静岡県内に留まらない。

巡検会や調査に同行して気付くことは、先生の植物への愛着や造詣の深さである。地学の研究に生物の知識が必要なのは論を待たないが、謙虚な態度で総合的に露頭を観察される姿には教えられることが多い。

自然科学の探求に限らず、見聞を広めることは大事であろう。先生は機会ある毎に世界各地に飛び、貪欲とも言える心眼で実地見聞を行っておられた。インド洋のマダガスカルやセイシェルなど海外の珍しい話を聞かせていただくのは、実に楽しみであった。

大学では心理学専攻と伺っているが、早くから地学に強い関心を持たれ、独自の方法で研鑽を積まれたものと推察する。また、新聞活用の授業（NIE）も先駆的であった。先生の工夫実践された、地道な努力の積み重ねこそは、研究や教育にとって最も大切な事柄であると改めて実感する。

優れた人物に出会えたことに感謝しつつ、御冥福をお祈り致します。

平成31年2月記す 半田 孝 司